

まちの魅力を発信する PRサポーターの活動に密着!



以前から、焼きたて手作りのパン屋「なかぱん」さんが気になっていたというPRサポーターの中里紫乃さん。取材から投稿までをご紹介します。

ご協力いただいたのは、幸手駅前通りにお店を構える「なかぱん」さん。(幸手市中2-8-41)
お店はご夫婦で営まれており、昔ながらの懐かしさを感じるパン屋さんです。



① 取材



「何種類のパンがありますか?」「ご主人のこだわりは何ですか?」など、メモを取りながらインタビューをする中里さん。

② 撮影



ご主人から「パンが焼けましたよ」と声をかけていただき、焼きたてのパンの撮影もできました!

③ 投稿



今回の取材の内容をまとめ、Facebookに投稿します。どんな記事や写真が掲載されたか、ぜひご覧ください。

◎中里さんのコメント

「なかぱん」さんは、気さくな店員さんが迎えてくれ、お客さんの声も取り入れている地域密着型のお店だと感じました。たくさんの人にこのようなお店を知ってもらって、広まっていくといいなと思いました。

飲食店など、個人で頑張っているお店や、こだわりを持ったお店を探して、紹介していきたいと思います。

PRサポーターの活動にご注目!



いいね!

PRサポーターの投稿は幸手市公式Facebookに掲載しています。

今まで気づかなかった幸手市の魅力を知ることができます。

問合せ シティプロモーション課 ☎(43) 1111 内線 682・FAX(43) 1122

広島平和記念式典に参加して

8月6日(火)に広島市で開催された広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に、市が募集した「平和の作文」で最優秀・特選を受賞した中学三年生6人が参加しました。

平和記念公園の慰霊碑、原爆ドームなどの見学や、被爆体験伝承者による話を聞くなど、平和の尊さについて改めて考える貴重な体験となったようです。

ここでは、参加した生徒の感想をご紹介します。

問合せ 人権推進課 ☎(43) 1111 内線 162

FAX(44) 0257

■宮田 英夏さん(幸手中)
今の私たちにできること
「原爆物語を作っていない。」
これは講話をして下さった山岡さんの言葉です。今回広島を訪れて私は、直接自分の目で見て、肌で感じる大切さを実感しました。

直接、被爆体験伝承者の方からお話を聞いたり、直接平和記念資料館で写真や資料を見て改めて平和である大切さを感じました。

このような機会を与えていただいた私たちだからこそ、今回の経験をを通して物語ではなく実話を次の世代に繋げていきたいです。

■青木 剣士郎さん(幸手中)
戦争の傷
「あなたには決してあの光景は分らない」
被爆二世の方の体験談でこの言葉を聞いたとき、とても冷たく感じました。けれどそうではないのだとすぐに気付かされました。

資料館での絵や写真は見ていられないほど酷いものでした。きつとあの言葉は「分からない」ではなく「体験してほしくない」「もう二度と被爆者を作ってはいけない」そう

言いたかったのだとそのとき思いました。

この派遣活動を経て、私たちはもう二度とあの悲劇を繰り返さず、明日という希望が繰り返す世界を築かなければならないと感じました。平和の灯が消え、戦争による心の傷が増えない未来を願って。

■小澤 茉莉さん(東中)
平和への思い

私は、被爆体験伝承講話や原爆資料館の見学、記念式典の参加を通して平和の大切さを改めて感じました。

原子爆弾の熱さに苦しんでいる人々の絵を見たとき、胸が強く締め付けられました。また、私たちと同じ中学生の写真を見たときは戦争がもたらしたものはこんなにも悲しいものなのか、と思う言葉も出ませんでした。

これから、私たちができることは、忘れてはならない過去の悲しみ、平和の尊さを後世に伝えることだと思えます。そして、平和な未来になることを願ひ続けます。

■高橋 佳太さん(東中)
実体験から学べること
「皮膚が焼きただれていました。」と被爆二世の方から聞いたときは、とても驚きまし

た。その方から実際に話を聞いて、どのようにして原爆投下することを決めたのか、世界で初めて投下された原子爆弾はどのくらいすさまじい爆発兵器なのかなど、普段の生活からではあまり学べないようなことをたくさん学ぶことができました。

このような貴重な体験は滅多にないと思います。今、被爆者の平均年齢が上がってきているので、伝えていけたらいいと思います。

■市原 麻有さん(西中)
肌で感じた広島
私は、広島を初めて訪れ、被爆体験談や原爆資料館、平和記念式典への参列を通して、改めて戦争は尊い命を簡単にうばい、非常に多くの人たちの心に一生治ることのない傷をつけたのかを知ることができました。

原爆、戦争について深く知るたび、心が締め付けられるような感覚になりました。それと同時に、自分の目で見て学ぶということがどれだけ意味のあることなのかと思えました。

今回学んだたくさん決意を込めて忘れないで、私たちが「平和の灯」を消すことができる

未来を創り出さなくてはならないと強く感じました。

■中山 晴菜さん(西中)
被爆者の思いをつなげる
被爆二世である山岡さんの話を聞いて、被爆者の方の願いを、願いのままで終わらせたいと感じました。

私は、山岡さんの話の中で特に印象に残っていることがあります。それは、被爆者である山岡さんのお母さんは真つ赤な夕焼けを見るのが嫌であるということです。

私は、平和への思いを胸に、世界の恒久平和をめざしていきたいと思います。

